

## 保育者養成校における「乳幼児の事故予防」に関する指導 — 基礎技能科目「幼児体育」の取り組み —

The Education for the Prevention of Young Children Accidents  
in the Child Care Worker Training Institution  
- The Approach in the Basic Skill Subject “Young Child Physical Education” -

榊原 尉津子  
Itsuko Sakakibara

(要約)

2004(平成16)年より「幼児体育」「小児保健」「小児保健実習」「保育内容・健康」の担当者が連携し共通課題として「乳幼児の事故予防」を取り上げ、関連科目間構造図の作成や文献研究、また三重県内の施設長と保育士を対象にした事故予防に関するアンケート調査や保育実習へ参加した学生を対象にしたアンケート調査等を実施し、関連科目担当者との連携による授業改善を試みた。本稿では、科目間の連携により得た情報や課題を筆者が担当する基礎技能科目「幼児体育」だけに絞り、授業改善を実際におこなった2005(平成17)年6月から2007(平成19)年10月までの実践内容を報告する。

(キーワード)

幼児体育、授業改善、乳幼児の事故

### はじめに

1960(昭和35)年以降、わが国の小児の死亡原因の第1位は「不慮の事故」である。死亡数はこの10年間減少しているが、事故件数そのものはほとんど減少していない。子どもの健全育成の観点からも国や各自治体がそれぞれに事故対策事業を行っている。例えば「健康日本21」(21世紀における国民計画運動)の母子版である「すこやか親子21」においては公衆衛生の4つの課題の一つに乳幼児の事故への取り組みと目標値が示されている<sup>1)</sup>。

また、1985(昭和60)年頃から子どもの体力・運動能力の低下傾向が続くとともに、肥満などの生活習慣病の増加が社会問題とされるなか、文部科学省の指導により2003(平成15)年度から子どもの体力向上推進事業が実施された。文部科学省ホームページ上にも「『子どもの体力向上ホームページ<sup>2)</sup>』開設2004(平成16)年4月1日」が掲載されている。

そこで、保育者養成校においても将来保育者として活躍する学生たちに、乳幼児の事故防止に対する知識と技能を教授していく必要があると考え、主に乳幼児の健康に関係する科目「幼児体育」「小児保健」「小児保健実習」「保育内容・健康」の担当者が連携して「乳幼児の事故予防」を共通の課題として取り上げ、2003(平成15)年より関連科目間の連携による授業改善を試みた。本稿では、科目間の連携により得た情報や課題を筆者が担当する基礎技能科目「幼児体育」だけに絞り、乳幼児の事故予防に関して保育・保育指導<sup>3)</sup>の実践能力を持つ保育者育成をめざして取り組んだ2005(平成17)年6月から2007(平成19)年10月までの授業改善の内容を報告する。

## 1. 研究目的

関連科目間担当者との共通の課題である「乳幼児の事故予防」について、改善に取り組んだ筆者が担当する基礎技能科目「幼児体育」での教授内容の整理と学生が保育者として現場のニーズに即した保育内容の展開と事故発生時に敏速に対応ができる知識と実践力を身につけさせることを目的に行う。

## 2. 研究方法

2003（平成15）年から得た情報（文献研究、関連科目間構造図から見る「幼児体育」の位置づけ、保育現場からの「幼児体育」に関する調査結果）の再確認を行う。次に2005（平成17）年6月～2007（平成19）年10月までに行なった授業改善（教授内容、幼児体育ノートからみる指導後の学生の反応）の報告をする。

## 3. 研究結果

### (1) 文献研究

2003（平成15）年より以下に挙げる文献研究と関連科目のシラバスの検討を行なった。

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針
- ・全国保育士養成課程検討委員会が示すシラバスの内容確認
- ・三重県健やか親子いきいきプランみえ
- ・三重県健康福祉部こども家庭チーム母子保健強化推進特別事業報告書
- ・健やか親子21と子どもの体力向上推進事業のサイト等

### (2) 関連科目間構造図から見る専門科目

#### 「基礎技能『幼児体育』について

「乳幼児の事故予防」関連科目間構造図<sup>4</sup>（図1）を作成し、共同研究者と定期的に研究会を持ち検討を行なった。

そこで、「幼児体育」では乳幼児の事故予防に関する内容として教授すべき内容は、①身体運動の楽しさ ②危険回避能力・運動能力を高める運動を身につけるということが分かった。

また、図1の中の関連科目「小児保健」の①に挙げられている『運動能力の低下』についても「幼児体育」の授業の中で教授していく必要があるということが明らかとなった。

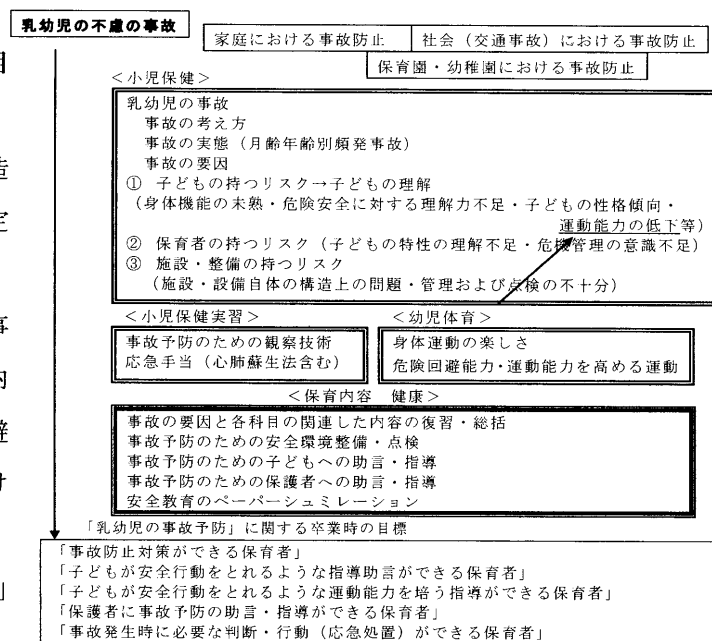


図1 「乳幼児の事故予防」関連科目間構造図

（榎原・梶「乳幼児の事故予防」に関する保育者養成校の取り組み(3)一関連科目間の連携による効果的な授業改善をめざして一高田短期大学紀要第24号、p120図、梶作成）

## 保育者養成校における「乳幼児の事故予防」に関する指導

## (3) 保育現場の調査

保育の現場における保育士の事故予防に対する取り組みの実態把握と保育現場におけるニーズ、必要な知識技術を検討することを目的に、施設長および低年齢児を担当している保育士2名を対象として、県内保育所（園）で市部と郡部より約100箇所を抽出し、郵送した（無記名質問紙法<sup>5</sup>による）。調査時期は、2004（平成16）年7月26日～8月6日。調査内容は、施設長対象は管理者の保育園での事故予防に対する取り組みと考えについて、保育士対象は乳児保育者の保育所（園）での事故予防に対する取り組みと考えについてである。

幾つかある質問項目の中で、「幼児体育」に関係する項目の結果は表1<sup>6</sup>のとおりである。「足腰の弱さ」「疲れやすい」「転びやすい」「手がつけない」【表1】保育における事故防止に関連して子ども自身の要因で気になること（複数回答）などの身体面での弱さの回答が67%以上を占め、文部科学省が実施している「体力・運動能力調査」とも一致した結果となった。

また、学生自身が実習先で実際に体験してきた保育現場での乳幼児の事故予防に関する実態を把握することを目的に、共同研究者である「小児保健」担当者が1・2年生とも実習終了後となる2004（平成16）年から毎年10月に記名式質問紙法により199人に調査を実施。調査内容は、学生が実習において観察してきた「保育所（園）での安全配慮」と学生自身が経験した「ヒヤリ・ハッと」である。「保育所（園）での安全配慮」については、安全指導として①園舎内では走り回らない ②乳児が高い所に登らないよう注意する ③階段では順番に昇降する等の意見が多かった。固定遊具については、①使用中必ず保育士を配置する ②ルールを決め安全に使用できるよう子どもに指導 という意見が多かった。その他、環境整備、プール時の配慮、散歩時の配慮等であった。

## 身体面 50

- ・足腰の弱さ、疲れやすい、転びやすい、手がつけない子がいる 46
- ・骨折しやすい・午睡後になるとやっと元気になる子がいる
- ・身体機能が未熟な子どもが多い・食べた物のどにひっかかり易かったり嘔吐する子がいる 各1

## 行動面 19

- ・固定遊具を使えるまでの発達がまだ出来ていないのに、それで遊ぼうとする 6
- ・イライラしやすい、予想外の行動、他の園児を押す、ひっかく、噛みつくなどの行為が見られる 5
- ・寝返り・つかまり立ち・伝い歩き・歩き始めの子への配慮 各2

## 生活面 5

- ・全て月齢で分けてしまうには保護者への理解を求める事が難しい 3
- ・快適に過ごす基本的な生活保障が完全でない（朝ごはん摂取、精神的な心の安定が得られない、イライラや十分な睡眠） 1
- ・家庭で柵など危険防止の用具がある中で生活している子どもが多く、階段や段差のある所など、経験不足の為、危険な事への意識が自然に育たなくなっている 1

## (4) 授業改善

(1)文献研究 (2)関連科目間構造図から見る専門科目「基礎技能『幼児体育』」について (3)保育現場の調査 以上これらの結果から乳幼児の事故増加の要因として考えられることは、乳幼児自身の協応動作の低下等が指摘されていることや保育所（園）対象のアンケート調査結果から子どもの事故に対する内容が多種に渡って起きていることに改めて気づいた。そこで、基礎技能「幼児体育」では、2005（平成17）年6月から子ども学科1年生が6月実施の教育実習と8月実施の保育実習へ参加する直前の授業の中で実習中に発生するかもしれないけがや事故に対して敏速かつ落ち着いた対応ができるように2004（平成16）年に保育所（園）対象と学生対象に実施したアンケート調査結果を資料として配布し、乳幼児のけがや事故への対応の仕方や乳幼児によくある症状の対処方法を教授した。

また、2004（平成16）年7月26日～8月6日に保育者対象に調査した項目<sup>7</sup>の中に「保育における事故防止に関連して子どもたちの健康・体力づくりのための運動あそび等を実施されていますか」という質問に対して回答者の半数以上が「はい」と回答があり、具体的に挙げていた運動の種類は表2のとりであった。回答数が多いあそびを見ると全身運動を取り入れたあそびや小型や大型遊具、固定遊具等を使用した運動あそびであった。

そこで、調査結果を参考にして事故防止のための体づくりを意識したリズム体操（童謡や子どもたち

【表2】運動あそび(複数回答)

- ・体操（走ったり、とんだり等）や集合遊び、ボールやフープ遊びなど身体を動かすあそび 20
- ・戸外遊びで足腰を鍛え体力づくりをしている 17
- ・ホールや園庭で大型ブロックやジャングルジム、はんとろ棒、太鼓橋で遊ぶ 11
- ・牛乳パックで作った箱や手作り階段から飛んだりして楽しみながら足腰を鍛える 11
- ・リズム遊び（お遊戯、リトミック等） 10
- ・ハイハイを十分させる 9
- ・スプリングマットで跳んだり、マット、トランポリンでアスレチックごっこをしたりしている 8
- ・ゴーストストップゲーム、色探しゲームなど敏捷性や判断力を養う簡単なゲームを取り入れている（2～3歳児） 4
- ・保育士と一緒に手すりをもち、階段の昇降をしている 3
- ・大型の積み木をつなぎ、その上を歩いたり、跳んだりしてバランス感覚を養っている 3
- ・プレイジムを使って斜面や階段を昇ったり降りたりして遊ぶ 3
- ・握ったり、つまんだりと手の力がつくようなおもちゃを出している 3
- ・普通の遊びの中でいろんな遊びから体を動かしたりして、機敏さや体力をつけている 3
- ・プールに入る前には体をほぐす体操をする 2
- ・マジックテープがついたキルティングマットに動物や果物の人形を貼ったりして遊びながら手先の力を養う 2
- ・10月以降、マラソン、乾布摩擦 2
- ・運動発達、達成カードの作成
- ・スキンシップをかねてのふれあい遊びをしている
- ・おむつ交換時、できるだけ手足を動かし、発達を促すよう心掛けている
- ・溝での水遊び等自分のやりたい事を保育者が付き見守りさせる
- ・素足保育
- ・昔から伝わる伝承あそびを積極的に取り入れる
- ・すべり台の縄の所を一人で登れるようにしている
- ・水・土・砂等で遊ぶ機会を多く持つようにしている
- ・友だちと握手や手をつないだりして遊びの中で強くにぎる活動を行う

に人気のアニメソングにあわせて創作)、大型遊具を使用(マット、跳び箱、平均台等)した遊びの創作、安全に配慮しながらの器械運動の指導法について、大型遊具や固定遊具の使用(点検)について等、実習先で即活用できる内容を取り入れ授業改善を試みた。

例えば、写真1は実際に学生が補助を付けてマット運動をしている時の様子である。一見危険が無いように見えるが、回転をしている学生の周辺を見るとノートやペン、シューズ等が置いてあったり、補助者以外に順番を待つ学生が回転している学生の直ぐ側で待機している姿が見られる。『安全への配慮』という声掛けをしないと忽ち学生たちは列を乱して演技者に近寄ってってしまう。

滑り止めが付いていないマットについては写真2のマットストップを敷くよう指示しなければ、滑りやすいマットの上であっても平気で演技をしてしまうのである。また平均台を

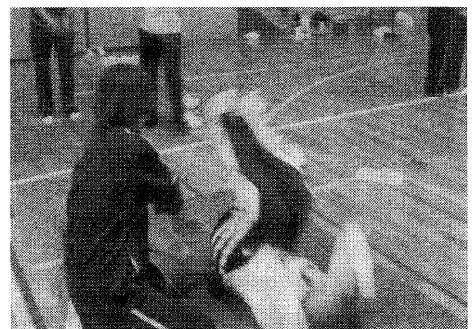


写真1 マット運動をしている様子

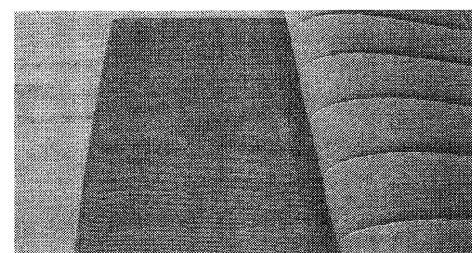


写真2 網目状のゴム製マットストップ (滑り止めシート)

## 保育者養成校における「乳幼児の事故予防」に関する指導

使用した時は、平均台下に落下防止用としてマットを敷き詰めることさえ忘れてしまうという状態なのである。

このような状態を目の当たりにし、「けがをするかも…」「死に繋がるのでは…」という意識の無い学生には日々の指導の中で、大切な命を預かる保育者として「安全配慮」という文字を学生一人ひとりの頭の中に植えつけていくようにその都度言葉掛けしていくとともに、あくまでも子どもにとって身体運動は楽しいものでなければならないことを前提に、学生に安全で楽しく、発達段階に沿った運動遊びの実践を教授した。

このように実習に出かける前に事前指導として教授したが、前期授業の感想を尋ねると「乳幼児の事故予防」に関する内容の記述が目立ったので数名の記述を抜粋して表3に紹介する。この事故予防に関する記述は、筆者がこの件について記述を求めたものではなく事前指導を行った結果、学生自信が「乳幼児の事故予防」に関して興味関心を持ち、また現場に出たことで必要性を感じたため書き留めたものと推測される。

【表3】幼児体育ノートから抜粋

- ・事前に話を聞いて、本当にこのような事故があるのかなと思ったけど、実際行ってみて案外ヒヤッとすることがあるなと思った。子どもたちは、何が危ないかがはっきり分かっていないので保育する側の注意や言葉掛けが大切だなと思った。
- ・ケガをしないよう、私たちがしっかり環境を整えておくことも大切ということが分かった。
- ・事故防止に関する知識を知っていることはとても大事な事だなと思った。
- ・子どもが日常生活の中でケガはつきものであるけれど、防ぐことのできる事故を保育者が未然に防がなければいけないと感じた。危険を予測し事故防止をしないといけない。責任重大であると思った。大切な命を預かるのだから全体を見渡し、一人ひとり気をつけて見なければいけないと感じた。
- ・事故なんて起きないだろうと思って授業で配られた資料を読んでいたけど、実際に実習に行き、園児達は目を離すとすぐに事故に繋がるんだという危険性がよく分かりました。
- ・プリントを読んだことによって、気をつけることが頭に入った。
- ・プリントを見て、言葉がけの必要性を感じました。
- ・実習前にどういう場所がよく事故が起きているのかをよく読み、それに似た場面は特に気をつけて注意しながら子どもたちと接したりしました。実際に事故が起こりそうな場面では、子どもたちに「大丈夫？」などと声を掛けたりして余裕を持って対応することができました。
- ・保育者になったら、事故防止に積極的に努めたいと思った。
- ・実際その場になったら、パニックになって注意など忘れるかもしれないけど、最初に知っておいたら、その危険な状態になる前に防げるかもしれないから、沢山知ってみたいです。
- ・実習で、「ヒヤリ・ハッと」という思いはしたくないと思った。だけど実際実習中に鉄棒から落ちそうになったりしてあせった。事前に話を聞いていたおかげで前から注意ができた部分があったよかったです。

#### 4. まとめ

- ・乳幼児の事故予防について「幼児体育」「小児保健」「小児保健実習」「保育内容・健康」の科目間で連携して授業展開をすることにより、学生の乳幼児の事故予防の意識の醸成を促すことができた。
- ・各アンケートの調査結果を授業時の資料として使用することは、学生記述表3からも分かるように具体的な事例として学生の関心を引きやすく効果的な授業となった。
- ・実習直前に乳幼児の事故予防について教授することで、無知なまま実習へ参加するよりも実際に事故を経験した時に園長や担当保育士に伝える等の余裕を持った対応ができる。

- ・事前指導を実施することで、学生の事故予防への関心が高まり知識を身に付けたいという気持ちが強くなった。
- ・学生の感想から、事前指導を受けたことにより、実習中事故が発生しても担任に報告するという落ち着いた対応をすることができた。
- ・今後は、関連する科目担当者と乳幼児の事故予防以外に新たなテーマを検討・研究し、授業改善を進めるとともに保育者養成校として質の高い保育者を育てていきたいと考えている。

## 註

- 1 榊原・梶「乳幼児の事故予防」に関する保育者養成校の取り組み（1）－関連科目間の連携による効果的な授業改善をめざして－高田短期大学紀要第22号. 77頁。
- 2 子どもの体力向上ホームページ <http://www.recreation.or.jp/kodomo/>、2007. 7. 31閲覧。
- 3 榊原・梶、前掲第22号、2003、78頁。
- 4 榊原・梶、前掲第24号、2005、120頁。
- 5 榊原・梶、前掲第24号、2005、120頁。
- 6 榊原・梶、前掲第23号、2004、38頁。
- 7 榊原・梶、前掲第23号、2004、39頁。